

NO20 平成29年2月10日



北山村 議会だより

編集発行
和歌山県北山村議会
TEL 0735-49-2331
FAX 0735-49-2207



※小森ダム点検のため湖水がなくなった北山川
(下尾井吊り橋から大沼方面への写真)

平成28年12月定例会が開催されました

平成28年12月定例会 補正予算等を審議/可決 P2~3

議員が村政を問う(一般質問) P4~5

議会日誌・編集後記(葛城健也) P6

平成28年12月定例会 ～補正予算等を審議・可決～

本定例会は、12月19日から21日（会期3日間）まで開催されました。19日の開会日は、諸般の報告として、村長の行政報告並びに提案理由の説明が行われ、翌20日は村道の認定が1件、条例の制定及び一部改正が6件、平成28年度一般会計及び特別会計の補正予算に関する議案が7件、計14件が上程されました。また、追加議案として「工事請負契約の締結」（給食室移転）や議員発議による意見書が提出され、慎重審議の結果それぞれ原案どおり可決承認されました。一般質問には議員2名が登壇し、急激に伸ばしている「ふるさと納税」や「北山川筏下り」日本遺産登録に向けた状況の確認など質疑が行われました。

●認定・条例予算の議案

- 認定第 8号 村道路線の認定について
 議案第 52号 北山村防災ヘリポートの設置及び管理に関する条例の制定について
 議案第 53号 北山村農業委員会の委員の定数に関する条例の制定について
 議案第 54号 北山村課及び室設置に関する条例の一部を改正する条例について
 議案第 55号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について
 議案第 56号 北山村使用料及び加入金の徴収に関する条例の一部を改正する条例について
 議案第 57号 北山村税条例の一部を改正する条例について
 議案第 58号 平成28年度北山村一般会計補正予算（第4号）について
 議案第 59号 平成28年度北山村国民健康保険特別会計補正予算（第3号）について
 議案第 60号 平成28年度北山村介護保険特別会計補正予算（第2号）について
 議案第 61号 平成28年度北山村後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について
 議案第 62号 平成28年度北山村簡易水道特別会計補正予算（第1号）について
 議案第 63号 平成28年度北山村国保直営診療所特別会計補正予算（第3号）について
 議案第 64号 平成28年度北山村地域振興事業特別会計補正予算（第3号）について
 議案第 65号 工事請負契約の締結について
 発議第 1号 地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書



一般会計補正予算（第4号）歳出の主なもの

予算科目	内容	金額（千円）
総務費	防犯カメラ設置工事費	450
〃	ふるさと納税謝礼	46,000
〃	ふるさと納税システム手数料	20,000
〃	ふるさと納税返礼品発送管理手数料	5,000
〃	ふるさと納税寄付金積立金	11,000
〃	紙折り機購入	2,592
〃	住宅取得補助金	2,600
民生費	子供医療費	524
〃	臨時福祉給付金	2,520
土木費	村道草刈委託費、	510
〃	奥瀬道路測量設計業務	15,700
〃	大沼住宅維持補修工事	1,500
消防費	消防団員報酬費	115



ふるさと納税返礼品

条例・一般会計等の議案審議

質疑の主な内容

北山村農業委員会の委員の定数に関する条例の制定について

問 農業委員は、農地を持っていない人は任命できないのか。それとも、農地を持っていれば誰でも任命できるのか。

回答 農地を持っていない人も良い。一般から広く公募することになり、委員の要件が軽減されたということ。

一般別会計

総務費

問 住宅取得補助金、空き家改修補助金、出産祝い金、件数とお名前を報告してほしい。

回答 住宅取得補助金が3件、空き家改修補助金が1件、出産祝金は3

件。名前は個人情報であり控えさせていただく。

教育費

問 教員住宅補修代として100万計上されているがこれは何を補修するのか。

現在、教員住宅として正式に認定されている物件は何軒あるのか。

回答 大沼六水の教員住宅一棟の床張替や壁、風呂や台所回りなどの改修を行う予定である。

他の住宅も、昭和56年から57年にかけて建設されたものであり、屋根や外壁なども相当傷んでおり点検修理が必要である。教員住宅として登録は現在10軒である。

土木費

問 奥漣道路Ⅲ期測量設計等の費用の詳細を伺いたい。

回答 奥漣道路Ⅲ期測量設計業務委託は、下尾井地区の奥地谷に予定している土捨て場建設であり、測量業務と設計業務及び用地測量で1,270万。さらに、小松地区の第三橋建設に伴う駐車場の整備で300万。合わせて1,570万である。

問 下尾井地区の奥地谷の土捨て場だけで設計測量1,270万も出ずのか。さらに用地賠償の問題もあり、今後費用として幾ら見込んでいるのか。その原資は全て村の税金で賄うのか？

竹原区の相須土捨て場のように、県に代行して用地測量など行ってもらえないのか。

回答 概算で13万㎡の土砂を想定しており、国から単価1,500円/㎡で、土砂が13万㎡見

込んでいるので、村に対して1億9,500万円の土捨て料が入ることになる。その範囲で整備したいと考えている。

問 奥漣第Ⅲ期工事は北山村が陳情して事業認定をされたものである。村の土地に土砂を捨てさすのに何故国が1億9千万円ものお金を払うのか。

村道市老谷線不動トンネルの残土は、竹原地区の相須土捨て場に処理したが、その際、村として直接測量設計などは行っていない。当時、用地約6万㎡を購入して、買収金額は1,200万円程あった。土捨て料は、3年計画で約2,400万入ってきたように記憶している。今回、用地面積2万㎡ほどの購入であるが、国土交通省として1億9千万もの経費が掛かるのであれば、別の方法、場所を探すのではないか？

小森地区の電源開発の用地や大沼中州の嵩上げ、下尾井グラウンドなど他の候補地も考えられるが、

回答 この土捨て料は、国交省紀南河川国道事務所との協議によって、村に対し土捨て場を確保してほしいという要望があったもので、金額など決定した経緯がある。

村道の認定について

●奥漣道路Ⅲ期事業の関係で、小松地区から下尾井地区までの国道(延長約4km)が、村道「上小松細津呂線」として認定されました。

現在、この国道169号は和歌山県の管理となっており、奥漣道路Ⅲ期工事の完成に合わせ北山村に移管されることとなります。



北山川観光筏下りを日本遺産に指定を（要望）

前岡 武津雄



平成26年2月に無形文化財に登録され、新宮市には国指定である浮島の森、新宮城跡、権現山（神倉山）、熊野古道、速玉大社など他9件がある。

【質問】文化庁は、文化財に物語を持たせて観光振興などにつなげる日本遺産に、今年度19件を認定している。認定された中では、熊野灘沿岸地域（新宮市、那智勝浦町、太地町、串本町）の捕鯨文化に関するストーリー「鯨とともに生きる」が日本遺産に認定された。

認定の要件として、北山村単独の地域型条件が厳しく困難、一方のシリアル型は北山村と新宮市とのストーリーの展開が重要な要件となっていて、地域にて受け継がれている有形、無形の文化財が対象となり、国指定の文化財であることなどが大きな要件である。北山川筏流しは

北山村と新宮市は互いに瀨峡でつながっており、昔からの筏流し、林業など歴史的にも深い結びつきがある。新宮市との日本遺産を進めていく中で観光筏と瀨峡、熊野古道といったつながりを深め、日本遺産に指定されたら互いの地域の発展にもつながる。3月に一般質問してから既に8カ月たっており、日本遺産の指定に向けてどのように進んでいくのか、また、新宮市とのこれまでの経過について伺いたい。

【回答】筏下りは、今年10月に村の無形民俗文化財に変更され、11月には県の登録を受け、11月には県の登録を受け、けるため筏流し保存会を設立し、会則も作って文化遺産課に申請

している。

県の審査会が年明けの1月か2月初めに開催されるという予定。既に新宮市教育委員会には北山村の方針を伝え協力をお願いしている。

今後の予定として、熊野川を中心以北山村の筏流し、新宮市の川原家とか丹鶴城跡、阿須賀神社、池田港をセットにして、北山の飛び地の村から新宮市に至るストーリーの展開を目指し指定される方向に持っていかればと考えている。

（三浦地域事業課長代理）

介護休業法の改正について

【質問】来年4月から、親の介護などに直面した際に仕事との両立支援に必要とされる介護休業制度が改善される。

改正ポイントとして、介護休業が、現在家族1人につき原則1回の取得に限っている介護休業を、分割して取得できるようになったこと。介護休暇がこれまで1日単位での取得が半日単位で取得が可能になり、その対象家族も拡大されたこと。さら

に雇用保険から支払われる介護給付金の給付額が賃金の40%から67%に引き上げられたことなど経済支援も拡充された。管理職など中核となる40〜50歳代の人材の、介護を原因とする離職を防止することを狙いとするものであり、役場職員あるいは関係職員にも適用されると思うが、現在こういう制度があるのか伺いたい。

【回答】介護休業制度は、職員の勤務時間、休暇等に関する条例において規定がある。今回の人事院勧告の改正により、本条例会では条例改正はしていないが、今後、近隣の市町村の状況を考慮しながら改正を検討したい。

（中森総務課長）



ふるさと納税について

葛城 健也



【質問】ふるさと納税は平成20

0年第1次安倍政権で、都会と地方の格差や過疎などで税収入が減少している自治体に対して格差是正を推進するために創設された制度である。多くの人が地方で生まれ、その自治体から医療や教育等さまざまな住民サービスを受け、育ち、やがて進学や就職を機に生活の場を都会に移し、そこで納税を行っている。その結果、都会部の自治体は収入を得るが、生まれ育った故郷の自治体には税収入がないらしい。都会に住んでも自分も育ててくれたふるさとに幾らかの納税ができる制度として生まれたのが、ふるさと納税である。

本定例会の補正予算では、3月末には1億2,000万のふるさと納税を見込んでいるが、平成20年から昨年まで8年間で、ふるさと納税による寄付金が2,190万、昨年で1,650万、今年が1億2,000万であれば、実に7倍強の増え率となっている増加した要因は何か？

また、ふるさと納税ができて9年たった現在では、ふるさと納税をすると好きな返礼品がもらえる、税金が控除される、何よりネットショッピングのように簡単に寄付ができることから全国的にふるさと納税が増えていくと考えられる。寄付なのに返礼品を贈ることについては、賛否両論があるが、この制度を利用して北山のじゃばらや北山観光筏下りなどアピールするところができることも確かである。今後、どのようなようにふるさと納税を伸ばしていくのか？

【回答】要因として商品の品ぞろえを増やしたということ。その中身は、みくまの農協との提携により、お米とかお肉とか、そういう品目が飛躍的に伸びたということ

ただし、じゃばら商品も、1億2,000万の内、約3割近いものは占めている。ふるさと納税の当初の趣旨から言うと少し逸脱しているような部分があり、多少抵抗感もあるが、要は北山村として、富裕層が対象であり、都会に住む方々にとにかく村を助けていただくという考え方もあり、今の状況はそういう考え方で良いのではないかと思っている。極端に言うと北海道の商品を扱うとか、そういうことではなく、一応来年度の方針としましてはあくまでも和歌山県内の産品を中心に扱っていききたい。

なりふり構わずという部分ではなく、やっぱり納税者のニーズにこたえられるような品ぞろえをしていって、売り上げを伸ばしたい。いろいろな納税に対する考え方はあるが、寄付者のご厚志とい

うことでこちらは受けとめて、それにこたえられるような村の体制を取っていききたい。(村長)

【質問】今後もネットの部分などまだまだ寄付金を増やすことができるように思う。スタッフの人手不足など、外部委託ということも検討したほうが良い。ふるさと納税による積立金の方も大幅な増加が期待されるが、基金の使い方も慎重に検討していただきたい。



議 会 日 誌

8月

- 2日 後期高齢者医療広域連合議会総会（和歌山市）
- 5日 和歌山県町村議会議長会全議員研修（日高川町）
- 19日 奥瀬道路3期事業の打合せ（田辺市）
- 25日 国道42号改良促進協議会総会（新宮市）
- 29日 紀南環境衛生施設事務組合議会定例会（新宮市）

9月

- 9日 学び舎プロジェクト委員会（村内）
- 12～13日 奥瀬道路3期工事の陳情（東京）
- 23日 議会運営委員会 議会全員協議会（村内）
- 24日 串本海上保安署完成式（串本町）
- 26～28日 9月定例会

10月

- 4日 東牟婁郡町村議会議長会研修（那智勝浦町）
- 18日 県副知事、農林水産部への訪問（和歌山市）
- 26～28日 広報研修及び委員会視察（東京～仙台市）

11月

- 8～10日 第60回町村議会議長会全国大会
- 11日 戦没者追悼式（村内）
- 14日 広島県豊田郡大崎上島町行政視察受入（村内）
- 16日 委員長・副委員長研修（和歌山市）
- 17日 総務建設常任委員会（村内）

12月

- 21日 国道168号五條新宮間協議会総会（大阪）
- 7日 学び舎プロジェクト委員会（村内）
- 16日 議会運営委員会 全員協議会（村内）
- 19～21日 12月定例会

地方議会議員の人材不足が大きな問題となっている中、全国町村議会議長会の要請により、議員が厚生年金に加入できるような法整備を求める意見書が可決されました。

地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書

地方分権時代を迎えた今日、地方公共団体の自由度が拡大し、自主性及び自立性の高まりが求められる中、住民の代表機能である地方議会の果たすべき役割と責任が格段に重くなっている。また、地方議会議員の活動も幅広い分野に及ぶとともに、より積極的な活動が求められている。

しかしながら、昨年実施された統一地方選挙において、町村では議員への立候補者が減少し、無投票当選が増加するなど、住民の関心の低下や地方議会議員のなり手不足が大きな問題となっている。

こうした中、地方議会議員の年金制度を時代に相応しいものにすることが、議員を志す新たな人材確保につながっていくと考える。よって、国民の幅広い政治参加や地方議会における人材確保の観点から、地方議会議員の厚生年金制度加入のための法整備を早急に実現するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

平成28年12月21日

北山村議会議長

久保 學

編 集 後 記

節分も終わり梅のつぼみもほころびだしてきましたが、朝の冷え込みが厳しく、布団から出るのも辛いです。日中は暖かくなりはじめました。

大沼から下尾井、小松の川の景色を見てみると、小森ダム点検の為にダム湖の水が抜かれ、昔の川が姿を表します。小森ダムはちょうど私が生まれた昭和40年に完成した重力式で総貯水量970万立方mの発電用のダムです。

ダムがなかった当時の話を聞いてみると、もしダムがなかったことを考えてしまいます。日本有数の多雨地帯である大台ヶ原を源流域とし、豪雨と急流により削られた深い渓谷と穏やかな流れの綺麗で美しい雄大な自然に囲まれた川のほとりで、キャンプやバーベキューを楽しむ家族連れ、鮎釣りを楽しむ釣り人、カヌーやラフティングを楽しむ若者、筏下りを楽しむ観光客など、北山川からは楽しい笑い声がこだましていたのではないのでしょうか。

高度成長期の中、ダムの建設によって住民生活が向上し地域の発展など恩恵を受けたことは確かですが、ダムを否定するものではありませんが、今回の議会日より表紙に掲載しました昔の北山川の面影に、色んな思いを寄せている人が多いのではないのでしょうか？

広報委員 葛城健也